❒　平成２１年度　第５回　図書館・文学館分科会　　議事録要旨

日　時	平成２２年3月１０日（水）　１８：３０～２０：３０
場　所	荒川区役所４階 庁議室
出席者	柳田邦男分科会長、山崎一穎副分科会長、興野愛子委員、竹内一委員 斉藤泰紀委員、並木一元委員、戸田光昭委員、横山幸次委員 北川嘉昭委員、友塚克美委員、藤田満幸委員 ［事務局］　飯田昌宏 総務企画課特命担当課長 佐藤泰祥 社会教育課長兼文学館調査担当課長 北村美紀子 南千住図書館長 坂入康弘係長、吉野友博係長、水野裕都係長、村木一貴主査 須田具子、石原久美江

１　分科会長挨拶

２　分科会の進め方について（事務局説明）

３　議事

（１）　図書館・文化館分科会まとめ案

①　図書館まとめ案について

②　文学館まとめ案について

（２）　連携事業について

４　意見交換

（１）　「図書館まとめ案」について

○　北区中央図書館を見学したが、全体として地域に馴染んでいるが、絵本館の部分は、親子が気軽に遊べる・読むという点では、レイアウトにもうちょっと工夫ができるのではと思った。

木城の絵本館などは小さいけど小さい感じがしない。本棚の周りにかなりスペースがあって寝そべって読める。

閉鎖的なビルの中に押し込められてしまった感じがあり、あれをどうやったらのびのびと開かれた感じにできるのか考えた。

伊万里では５０人ぐらいの階段教室があるが、読み聞かせをするにしろ、紙芝居をす

るにしろ、子どもたちの顔が均等に見えていいなと思う。

○　「のぼりがま」の中というコンセプトで、ユニークで話が伝えやすい構造になっている。

○　伊万里と同じ設計者が滋賀県愛知川町立図書館を作っているが、「のぼりがま」ではないが同じように下に読む所があって、普段は子ども達がごろごろ転がって読んでいて、とてもいい雰囲気である。子どもが一杯いなくても、何人かでそこで読み聞かせができるし、よく考えられている。

　立ち上がりのときから専門家に来てもらって一緒に作っていくあたりは、この案を具体化する上で必要なことだなと思った。

○　図書館では、平面だとなんとなく学校の教室みたいになってしまうので、やはり階段になっていて、子どもたちのきらきらする目が均等に集まってくるようになると、話している方も熱が入ってくる。

○　伊万里の「のぼりがま」のようなものは、教育委員会の方でも作っていただけるような気持ちがあるようですが、「ユウ・ガット・メール」という映画の中で出てくる小さな児童書専門の本屋の雰囲気がとてもよく、もう一つは、同じ映画で出てくる大規模な本屋の２階の児童書の部分も、本屋なんですけど、子どもたちが本を床に並べて座って見ていて、こういう雰囲気はいいなあと思った。

　図書館の資料の３０ページの３の「区民との協働・区民参加の場を提供」の中で「区民の意見も反映して出来た図書館」とあるが「区民」とはどの区民なのか、また「ボランティア」はこの図書館で本当に必要なのか、馴染むか馴染まないのか検討してもらいたい。

　また、スペースのことが気になっていて、１６ページに「自分の居場所が選べる多様で豊富な閲覧席」とあるが、これはこうしていただかないと困ると思っており、２９ページの（６）で「４００席程度」とあるが、これもこうしていただきたいと思うが、なぜ必要だということと、どの程度のスペースが必要かということと、「多様」というのがどういうものなのかと。

　これについて、特徴的な函館市立図書館に行って、多様な閲覧席を見てきたが、土曜日の夕方でしたが５００席のうち１席も空いておらず、老若男女がこぞって座っていた。この図書館では閉架書庫が４０万冊想定で７００㎡ぐらい、児童書は５万冊規模で６０６㎡、新聞雑誌コーナーで３５０㎡、ヤングアダルトは２５０㎡で、研修室やホールやエントランスなどすべてのスペースを含めると７，７００㎡であった。ここは５００席で、やはり相当のスペースがいるなと思うが、うちは４００席だが上手く配置をすれば

何とかできそうだと感じている。

次に文学館ですが、書斎を持って来るということになると、高さがあるので吹き抜けになっていくのかなとか、１万㎡の中でどういう工夫ができるのかなと思う。

函館のことから想定すると、最低限図書館部分では、廊下、研修室などの共用部分、喫茶スペースを除いて３，７００～８００㎡が必要と思われるが、そうすると、絵本館や子ども図書館をどのぐらいの広さで所蔵３万冊と想定したのか。

○　大学の場合は文部科学省の規定で、学生は一人当たり１．８㎡で、教員が２．５㎡なので、４００席を取ろうとすると、教員のスペースで考えると約１，０００㎡になる。

○　函館の話ですが、児童書のコーナーが普通の図書館ぐらいのコーナーで、大人のコーナーからさりげなく入ってこられる。読み聞かせコーナーもあって、その壁面にはクッションみたいなものがあって、子ども達はクッションに座ったり、寝っ転がったりしながら聞いている。

玄関を入った所にも椅子があるし、自動販売機コーナーの所にもテーブルがありそこで勉強を違和感なくしていている。丸テーブルには５人、４人、３人、２人と座っている。会議室も使わないときは、閲覧席としていつでも開放しており、すごいフレキシブルである。

ボランティアについては、ここまでの仕事をやってくださいと線引きして、企画や運営には入っていないと言っていた。

ＩＣタグについては、これから考えるそうだ。

○　ボランティアについては、今でも南千住図書館では、音訳ボランティアさんや読み聞かせボランティアなどの力をお貸しいただいている。いろんな図書館の話を聞いても、ボランティアの協力をいただいている所も多く、伊万里などは、その最たるものだと思う。区としてボランティアのお力を貸していただく場面を上手に作っていくことも行政の役割だと思う。

面積については、この会議が陣取り合戦にならないようにしているが、夢は自由に語っていただいて、それを構想としてまとめて、最後は行政計画として設計の中で夢が実現できないこともあるかもしれない。

事務局としては、一応面積ははじいており、ここで出したものがその後の拘束力があるものではないというご理解の上でですが、事務局としては、複合施設としてのエントランスなどは除いて、図書館としての機能だけで６，０００㎡近くはいるだろうと考えている。

○　こちらの場合は都市型図書館なので、函館や伊万里のようにフラットにはならない。

ここは敷地が狭小なので、エントランスなどをどうさばくかが設計上の最大の問題になる。

○　ここでまとめるのは、具体的な数字ではなく、こういう機能を果たせるスペースを是非確保して欲しいという提言だろう。

○　よく図書館に行くと、何冊入るけど、実際には何冊あるという話しがある。そのゆとりがある所とない所がある。その辺のことも検討していただきたい。

○　日本一の絵本館という言葉が出でているが、所蔵数だけでなく、中身がどれだけ日本一に匹敵する内容にするかというソフトの部分に知恵を使っていかなければいけない。

○　ソフト面の鍵は、職員の専門性や、高度な知識、柔軟な発想力・選書力で配置そのものが変わってくる。ソフトの最後の決め手は人だと思う。今後これをどうしていくかも大事な要素だと思う。

　区民の参加やボランティアの問題については、立ち上げから住民が関わっている図書館も全国にはある。プラス面とマイナス面をよく研究してもらいたい。

○　前回の懇談会で早いうちに館長を決めた方がいいというご提案があり、ごもっともかと思うが、実際に専門家のような実務に携わっている人に早いうちから関わっていただいた方が、配慮が行き届いた設計になると思う。

　運営に関するボランティアの方では、児童施設については早いうちからファンを作って行こうと、地域の子どもさんの団体に早いうちから参加していただくと上手くできていくのではないかと。

　議会の方では、住民の方に地方債を買っていただくなど、お金の面でも参加していただいてはどうかという意見もいただいている。

○　この案には、ボランティアの位置付けと関わり方がどこにも書いていない。ボランティアの問題について、１項どこかに書いた方がいい。子ども図書館と一般向けの図書館とそれぞれ書いた方がいい。

　図書館なり複合施設の場合には、コーディネーターの役割を公務員がやるべきで、役所がやるべきことを、人手が足りないからボランティアにやってもらうということはやっちゃいけない。

○　人手不足という発想はなくて、区民の皆さんとの協働ということでタイトルとして固めてある。区民の皆さんも自身も、今の団塊の世代の方を中心に、地域に貢献したいと

いう意欲がかつてよりも高まっているといわれていて、いろんな形で活躍する場を提供するという意味はあるが、決して役所の仕事をお願いするという発想はない。

○　３０ページに「様々なボランティア活動」とあるが「様々な」とやるからいろいろ出てきてしまうので、「読み書かせ」とか「展示」とか、そういうことを入れるだけで限定されるのではないか。

○　ボランティアさんとの「協働」ということと、仕事の内容を分けるということが必要。

○　３０ページの３の所で「協働」についてまとめてほしい。「場を提供」というのは狭い意味でのハード面のことにとらわれず、「協働」と「参加の推進」のような枠組みにしてはどうだろうか。

○　２８ページの（１）の「全体として、ゆったりした書架等の配置」については、「ゆったり」だけがいいわけでもないので、メリハリをつけて欲しい。
　２９ページの（５）のレファレンスについては、ほとんどの図書館では一般のカウンターとレファレンスカウンターが離れているので、気軽に利用できるような配置を考えて欲しい。

○　レファレンスを知らない人が多数だと思うので、そこに行ったらどうなるかというのが身近に分かった方が配置としてはいいと思う。

○　気楽に相談ができるようなイメージを工夫したい。

○　４００席という話については、全部に机と椅子がなくてもいいと思う。

○　階段も使えると思う。文京区に作った施設では、階段に座って食事をしたり、音楽を聴いたりすることができるように、片側だけ木にした。

○　窓辺にあったり、書架と書架の間にあったり、個別のものがあったり、２０ｍぐらいの長テーブルがあったりなどいろんな要素があるのだろう。

○　日本では図書館の周りの緑陰で読書するということがまったくないので、その項目を一つ加えて欲しい。
　荒川区の図書館に来ると、「小さいけれど林、緑陰があって、そこで椅子に座って本を読める」というような風景が見えると、親近感があって、いわば誘い水になる。

項目としては、「図書館において屋外読書が楽しめるような環境を整備する」というような感じ。イメージ一つが大事。

○　現在敷地内の東西を結ぶ道路を４ｍから６ｍに広げようとしているが、できればさらに３ｍプラスしようとしていますが、プラスする部分は道路ではなくて、歩道状にしようと。そしてその遊歩道的な所を、緑化を若干しながらベンチを置くなど、そんな使い方ができる可能性はあるかなあと。

西側の方は、緑地が若干作れるかどうかを議論している。

○　２９ページの（６）で「屋外読書デッキ」という考え方を持っており、借りたものがすぐに外で読めるというようなことも少し入れている。

○　「緑陰で読書」の意味は二つあって、一つは貸出手続を取っていない本を図書館の領域内のサンルーム的な場所でめくってみるということと、もう一つは借りた本や自宅から持ってきた本を外で読める空間ということ。

○　中庭のイメージをしていた。

○　２８ページの「ゆったりとした書架の配置」の記載については、「探す本の種類によって適切に配置する」とかそういうニュアンスで記載を修正すべきではないか。

○　２２ページから２３ページに「子どもも大人も親しめる絵本館」について記載があるが、（４）として「大人も」ということを１項目作れば、よそにないものができる。

尾道市が来年度から、老人ホームや老人病棟などにお年寄り向けの絵本コーナーを置くことにするらしい。

そういう取組を見ていると、漠然と「子どもも大人も」ではなく、「大人こそ絵本を」と（４）ぐらいに書いて、そのために「人生と絵本」という講演をやるとか、「大人のための絵本コーナー」などの本棚を作るとか具体性に結び付くような書き方をして欲しい。

（２）　文学館まとめ案について

○　「文学館まとめ（案）」１７ページの「プロデューサーの活用」とあるが、活用という言葉は人を使うと捉えられ、芸術文化の分野で専門家を活用するとは言わない。お役所的で、活用はあまり言い言葉ではないので、違う言葉を探したほうが良い。

○　司馬記念館には司馬記念館でなくては購入できない物があるが、呼び寄せる効果を十二分に発揮できるので、ぜひここでしか得られない吉村記念館の独自のものを考えて欲しい。

○　そんなに厚くなくていいので、中学生くらいを対象に、吉村さんの人物伝や、吉村さんが何を見てきたのかが解る副読本があったら良い。区立図書館でも販売できる。

○　松山の「坂の上記念館」がテレビドラマの影響もあって、来館者が倍増した（昨年は６万人）。今、毎日８０～１００人は確実に入っている。
　それを真似するという意味ではないが、文学館を作ったらデビュー的に一度、吉村作品をテレビ化して人々の眼を荒川区に「吉村昭記念館あり」という感じにしていく。
　一度、認知度を高める企画が必要。完成に合わせて３年くらい前から計画したら良い。

○　現在、水戸を中心に「桜田門外の変」の映画を制作中だ。

○　偕楽園の千波湖に４億くらいのセットを作って、撮影が終わったら一般展示とのことなので、例えば、そういった所とぜひリンクして欲しい。

○　吉村さんの文学の記録性を重視しつつ、逆の発想として「記録を主にした写真展」もできるのではないか。

○　司馬記念館は司馬さんの原稿そのものがカラフルなので、原稿の展示も面白いし見せ物がたくさんあり、企画のテーマがどんどん変わっても面白い。それと複製物をスーベニアとしても販売している。愛用した原稿用紙を小さくして封筒付きで販売したり工夫しているが財団だからできる。ただ、訪問した方には喜ばれる。

○　どこの施設も生原稿など展示物をただ展示してあるだけなので、展示してあるだけはなく、コピーでいいからそれを手にして、展示物の中身はこうなっているのかと照ら合わせながら見ることはできないのか。特に吉村さんは原稿や構想メモが多数あるので。

○　見せ方は特に工夫しないとダメだろう。何故リピーターが来ないのかは展示替えをしていないだけではなく、見せ方の工夫をしていないのでは。最近、文学館協議会では見せ方の工夫に気鋭を上げて研究している。どこでどのようなサービスをするのかは工夫が必要だろう。

○　収蔵庫についても、普通は一般の人がお願いをしても見せてもらうのは無理だが、例えば、収蔵庫の中が覗けるような小窓をつけるようなことはできないものか。